

公益財団法人 中国残留孤児援護基金

令和 3 年度

介護関連活動状況調査の結果（概要）

■ 調査の概要

■ 介護関連活動状況調査の結果

1 回答者の概要

- (1) 帰国者との関係、年齢（年代）
- (2) 性別
- (3) 居住地
- (4) 日本での居住年数

2 資格取得と介護関連業務への従事状況等の概要

- (1) 介護資格取得の時期
- (2) 取得した資格
- (3) 介護関連資格取得後の就労状況
- (4) 現在介護関連の仕事に就いている者について
  - ①雇用形態
  - ②仕事の見つけ方
  - ③事業所のサービス種類
  - ④職場までの通勤時間
  - ⑤1ヶ月の就労時間
  - ⑥1ヶ月の平均収入
  - ⑦世帯収入中の介護収入の割合
  - ⑧中国帰国者を担当した経験
  - ⑨中国帰国者を担当して困ったこと
- (5) 現在介護関連の仕事に就いていない者について
  - ①介護の仕事をしていない、または、予定していない理由
  - ②今後、介護の仕事をする意志
- (6) その他
  - ①介護関連資格取得者の行っている他の帰国者支援活動
  - ②「中国語の対応が可能な介護事業所」の情報について
  - ③援護基金機関紙等の送付について
  - ④帰国者の介護に関する意見

## ■ 調査の概要

---

### 1 調査の目的

この調査は、援護基金が介護関連資格取得援助を行った者（中国帰国者とその家族）の介護関連業務への従事状況を調べ、今後の援助の在り方を検討する資料とするために実施した。

なお、平成 25 年度に、助成を開始した平成 15 年から平成 25 年 10 月迄の援助対象者にも同様の調査を実施している。

### 2 調査の対象

平成 25 年 11 月から令和 4 年 1 月迄に援護基金が介護関連資格取得援助を行った者（中国帰国者またはその家族）350 人。

### 3 調査基準日

令和 4 年 2 月 1 日

### 4 調査の期間

令和 4 年 2 月～令和 4 月 6 月

### 5 調査の方法

調査対象者に調査票と返信用封筒（切手貼付）を郵送し、対象者自らが回答を記入し援護基金本部事務局に返送する方法により実施。

### 6 調査結果の取りまとめ

対象の 350 人中、重複する 19 人（同一人物が二つ以上の資格取得）を除く調査票を郵送した 331 人中 40 人が宛先不明により不達。調査票が届いたと見られる 291 人のうち 171 人が回答（未回答 120 人、回答率は約 6 割の 59％）。

調査結果は、回答のあった 171 人について取りまとめた。

#### ※参考 初回調査（平成 25 年度実施）

郵送 573 人。うち 121 人が宛先不明により不達。調査票が届いたと見られる 452 人のうち 120 人が回答（回答率約 3 割の 27％）。

## ■ 介護関連活動状況調査の結果

### ※集計数字の処理法

- 1 調査票の回答者は合計 171 人であったが、質問毎に見ると必ずしも全員が回答していない質問もある。したがって、各質問に対する回答の集計は、その質問への回答が無いものを「不明」として回答数から除外して集計した。
- 2 パーセンテージは原則として小数第一位を四捨五入した整数値で表すこととした。このため、合計が 100% とならない場合もある。

## 1 回答者の概要

### (1) 帰国者との関係、年齢（年代）

回答者の帰国者との関係（以下「関係」という）は、以下のとおり（配偶者を含む）であった。

一世世代 2%      二世世代 65%      三世世代 32%  
四世世代 1%

年齢は、平均 49.9 歳。50 歳代が最も多く全体の 43%、次いで 40 歳代が 23%、30 歳代が 16% となっている。

「関係」と年齢を組み合わせると、50 歳代の二世世代が回答者の中心となっていることがわかる。

(人)

| 関係<br>年代 | 一世 | 一世<br>配偶<br>者 | 二世          | 二世<br>配偶<br>者 | 三世          | 三世<br>配偶<br>者 | 四世 | 四世<br>配偶<br>者 | 計             |
|----------|----|---------------|-------------|---------------|-------------|---------------|----|---------------|---------------|
| 20代      | 0  | 0             | 0           | 0             | 3           | 0             | 0  | 1             | 4 (2%)        |
| 30代      | 0  | 0             | 0           | 1             | 12          | 15            | 0  | 0             | 28 (16%)      |
| 40代      | 0  | 0             | 8           | 9             | 12          | 10            | 0  | 0             | 39 (23%)      |
| 50代      | 0  | 2             | 45          | 24            | 2           | 1             | 0  | 0             | 74 (43%)      |
| 60代      | 0  | 2             | 16          | 8             | 0           | 0             | 0  | 0             | 26 (15%)      |
| 計        | 0  | 4<br>(2%)     | 69<br>(40%) | 42<br>(25%)   | 29<br>(17%) | 26<br>(15%)   | 0  | 1<br>(1%)     | 171<br>(100%) |

(2) 性別

回答者 171 人の性別は、男性 49 人、女性 122 人であり、全体の約 71% が女性であった。

(3) 居住地

回答者 171 人の居住地は、大阪府が特に多く（全体の 61%）、続いて愛知県（10%）、東京都（5%）、神奈川県（4%）と続く。

| ブロック | 都道府県 | 回答者数 |     | %    |      |
|------|------|------|-----|------|------|
| 北海道  |      | 0    | 0   | 0%   | 0%   |
| 東北   | 山形   | 4    | 4   | 2%   | 2%   |
| 首都圏  | 群馬   | 2    | 27  | 16%  | 1%   |
|      | 埼玉   | 4    |     |      | 2%   |
|      | 千葉   | 3    |     |      | 2%   |
|      | 東京   | 9    |     |      | 5%   |
|      | 神奈川  | 6    |     |      | 4%   |
|      | 長野   | 3    |     |      | 2%   |
| 東海北陸 | 愛知   | 17   | 17  | 10%  | 10%  |
| 近畿   | 京都   | 4    | 114 | 67%  | 2%   |
|      | 大阪   | 104  |     |      | 61%  |
|      | 兵庫   | 2    |     |      | 1%   |
|      | 和歌山  | 4    |     |      | 2%   |
| 中国四国 | 広島   | 3    | 7   | 4%   | 2%   |
|      | 岡山   | 4    |     |      | 2%   |
| 九州   | 鹿児島  | 1    | 2   | 1%   | 1%   |
|      | 大分   | 1    |     |      | 1%   |
| 計    |      | 171  | 171 | 100% | 100% |

#### (4) 日本での居住年数

回答者の日本での居住年数の平均は 24 年。居住年数の分布は、「30 年以上」の人を中心にしたピラミッド型になっている。

| 日本居住年数     | 人数  | %    |
|------------|-----|------|
| 5年未満       | 6   | 4%   |
| 5年以上10年未満  | 9   | 5%   |
| 10年以上15年未満 | 11  | 6%   |
| 15年以上20年未満 | 18  | 11%  |
| 20年以上25年未満 | 38  | 22%  |
| 25年以上30年未満 | 39  | 23%  |
| 30年以上      | 50  | 29%  |
| 計          | 171 | 100% |

## 2 資格取得と介護関連業務への従事状況等の概要

#### (1) 介護資格取得の時期（資格取得援助の時期）

回答者のうち、最近 5 年間に資格取得援助を受けた者が 63%を占めている。

| 援助時期   | 人数  | %    |
|--------|-----|------|
| 平成25年度 | 8   | 5%   |
| 平成26年度 | 28  | 16%  |
| 平成27年度 | 12  | 7%   |
| 平成28年度 | 16  | 9%   |
| 平成29年度 | 15  | 9%   |
| 平成30年度 | 16  | 9%   |
| 令和元年度  | 17  | 10%  |
| 令和2年度  | 27  | 16%  |
| 令和3年度  | 32  | 19%  |
| 計      | 171 | 100% |

## （２）取得した資格

介護職員初任者研修、ヘルパー２級が多数を占めるが、実務者研修、介護福祉士、介護支援専門員（ケアマネジャー）等上位資格の取得や、援護基金が助成していない他の資格取得も見られる。

なお、一人で複数の資格を取得している者は①の表の「その他」に区分し、②の表「その他の内訳」に取得した資格の内訳を記した。

①

| 取得資格                | 人数  | %    |
|---------------------|-----|------|
| 1) 介護職員初任者研修、ヘルパー２級 | 128 | 75%  |
| 2) 実務者研修            | 12  | 7%   |
| 3) 介護福祉士            | 7   | 4%   |
| 4) その他              | 24  | 14%  |
| 計                   | 171 | 100% |

## ② その他の内訳

|                                                         |    |
|---------------------------------------------------------|----|
| 1) ①ヘルパー２級、初任者研修 ②実務者研修                                 | 12 |
| 2) ①ヘルパー２級、初任者研修 ②介護福祉士                                 | 3  |
| 3) ①介護福祉士 ②介護支援専門員（ケアマネジャー）                             | 1  |
| 4) ①ヘルパー２級、初任者研修 ②実務者研修 ③同行援護従業者養成研修                    | 2  |
| 5) ①ヘルパー２級 ②介護福祉士 ③介護支援専門員（ケアマネジャー）                     | 1  |
| 6) ①初任者研修 ②実務者研修 ③介護福祉士                                 | 1  |
| 7) ①初任者研修 ②実務者研修 ③福祉有償運送運転者講習                           | 1  |
| 8) ①介護福祉士 ②管理者研修 ③介護支援専門員（ケアマネジャー）                      | 1  |
| 9) ①介護福祉士 ②行動援護従業者養成研修<br>③介護支援専門員（ケアマネジャー）④移送サービス運転者研修 | 1  |
| 10) ①初任者研修 ②実務者研修 ③介護福祉士 ④S1認知症ケア資格                     | 1  |
| 計                                                       | 24 |

### （３）介護関連資格取得後の就労状況

介護の仕事に従事しているかを聞いたところ、６割が現在何らかの形で介護の仕事に従事していると答えた。一方、４割が（過去に介護の仕事に従事したが）現在は従事していない、または介護の仕事に従事したことがない、（他の仕事に従事している等で）する予定がないと答えた。

|                             | 人数  | %    | 人数     | %   |
|-----------------------------|-----|------|--------|-----|
| 1) 現在介護の仕事に従事               | 75  | 44%  | 101    | 60% |
| 2) 現在介護と他の仕事に従事             | 26  | 15%  |        |     |
| 3) 今は介護の仕事に従事していない          | 31  | 18%  | 68     | 40% |
| 4) 介護に従事したことがない、現時点で予定していない | 37  | 22%  |        |     |
| 計                           | 169 | 100% | (無回答2) |     |

### （４）現在介護関連の仕事に就いている者について

#### ①雇用形態

現在介護の仕事に従事している者のうち、約半数（４６％）が正規職員で、残り半数（５４％）は非常勤やパートの職員であった。

|           | 人数 | %    |
|-----------|----|------|
| １）正社員     | 46 | 46%  |
| ２）非常勤・パート | 53 | 54%  |
| 計         | 99 | 100% |

(無回答2)

#### ②仕事の見つけ方

現在介護の仕事に従事している者の仕事の見つけ方については、友人や知人の紹介による場合が最も多く約６割（５９％）となっている。「その他」では「（自分や家族の）介護事業所開業」が８件、「（家族の）介護先」が３件、「介護教育機関」が１件、無回答が１件あった。

|                   | 人数 | %    |
|-------------------|----|------|
| １）ハローワーク          | 9  | 9%   |
| ２）民間紹介所           | 5  | 5%   |
| ３）インターネット、チラシ、雑誌等 | 13 | 13%  |
| ４）友人、知人紹介         | 57 | 59%  |
| ５）その他             | 13 | 13%  |
| 計                 | 97 | 100% |

(無回答4)

### ③事業所のサービス種類

|                            | 人数  | %    |
|----------------------------|-----|------|
| 1) 訪問系（介護、入浴、夜間型等）         | 58  | 50%  |
| 2) 施設系（特養、老健、療養型、サ付高齢者向住宅） | 13  | 11%  |
| 3) 通所系（デイサービス、リハビリ等）       | 26  | 23%  |
| 4) 小規模多機能系（訪問＋通所＋宿泊）       | 11  | 10%  |
| 5) ショートステイ（短期滞在）           | 2   | 2%   |
| 6) 認知症グループホーム              | 1   | 1%   |
| 7) その他                     | 4   | 3%   |
| 計（複数回答あり）                  | 115 | 100% |

現在介護の仕事に従事している者の所属事業所が行っているサービスの種類について聞いた。「訪問系」が最も多く50%、「通所系」23%、「施設系」11%、「小規模多機能系」10%。「その他」には「病院（看護助手）」や「病院（介護、入浴、オムツ交換、検査搬送）」、無回答がある。

### ④職場までの通勤時間

現在介護の仕事に従事している者の職場までの通勤時間は、全体の約7割（68%）が30分以内と答えている。

|          | 人数 | %    |
|----------|----|------|
| 1) 15分以内 | 32 | 33%  |
| 2) 30分以内 | 34 | 35%  |
| 3) 45分以内 | 12 | 12%  |
| 4) 1時間内  | 12 | 12%  |
| 5) 1時間以上 | 7  | 7%   |
| 計        | 97 | 100% |

（無回答4）

### ⑤1ヶ月の就労時間

1ヶ月の就労時間は、100時間以上と答えた者が最も多く約4割の39%（39人）となっている。

|             | 人数  | %    |
|-------------|-----|------|
| 1) 30時間未満   | 16  | 16%  |
| 2) 30～50時間  | 20  | 20%  |
| 3) 50～100時間 | 26  | 26%  |
| 4) 100時間以上  | 39  | 39%  |
| 計           | 101 | 100% |

⑥ 1ヶ月の平均収入

1ヶ月の平均収入が20万円以上の者は全体の約4分の1の26人（26%）、残り4分の3が74人（74%）で20万円未満である。

|            | 人数  | %    |
|------------|-----|------|
| 1) 5万円未満   | 13  | 13%  |
| 2) 5～10万円  | 21  | 21%  |
| 3) 10～20万円 | 40  | 40%  |
| 4) 20～30万円 | 22  | 22%  |
| 5) 30万以上   | 4   | 4%   |
| 計          | 100 | 100% |

（無回答1）

⑦世帯収入中の介護収入の割合

世帯収入に占める介護収入の割合は、1割未満が17%、3割以下が38%を占めている。一方5割以上と答えた者は31%である。

|         | 人数 | %    |
|---------|----|------|
| 1) 1割未満 | 16 | 17%  |
| 2) 2～3割 | 20 | 21%  |
| 3) 3～5割 | 30 | 32%  |
| 4) 5～8割 | 16 | 17%  |
| 5) 8割以上 | 13 | 14%  |
| 計       | 95 | 100% |

（無回答6）

⑧中国帰国者を担当した経験

中国帰国者の介護を担当したことがある者は約7割の66%となっている。また、「ある」の担当件数の合計は次のとおり。

残留孤児（その配偶者含む） 502件

残留婦人（その配偶者含む） 80件

婦人二世（その配偶者含む） 145件

|              | 人数 | %    |
|--------------|----|------|
| 1) ない        | 29 | 30%  |
| 2) ないが、見聞きした | 4  | 4%   |
| 3) ある        | 63 | 66%  |
| 計            | 96 | 100% |

（無回答5）

## ⑨中国帰国者を担当して困ったこと

中国帰国者の介護を担当したことがある者に、担当して困ったことについて聞いてみた。回答内容は、担当して困ったことに限らず、自分が介護職に従事して困ったこと、帰国者が日本の生活で困っていること等も含まれている。

- 1) 日本語がうまく話せないため、通院の手伝いや家の郵便物の処理、家庭内の困り事など、介護以外のお手伝いが多く発生してしまう。何度か手伝うと次も頼まれることが多くなる。
- 2) 介護職員として介護サービス内容の理解不足と日本語が上手に話せないことによる不便さ。
- 3) 利用者が介護の内容をよく理解していないで、中国のお手伝いさんと同様に自分の思い通りにお世話してくれると考えている。辛抱強く説明しているが、訪問当日突然日程変更したりするので、訪問員の次の訪問先の段取りに影響して困った。
- 4) 帰国者は高齢のため日本語もうまくできず、不便なことが多い。入浴介助で訪問する時、中国語ができる職員が訪問するととても喜ばれた。
- 5) 利用者の介護保険に対する理解が足りなく、サービス提供時に保険外の要望が多い。
- 6) 利用者が介護とお手伝いさんの違いや考え方が分からず、ルールを守れないこと。
- 7) 多くの帰国者は日本語が不得手で、市役所や通院での通訳の必要だ。介護では通院通訳等が時間内できなかったことが多く、困ることがある。
- 8) 時に老人の心理面（気をもむ、やるせなさ、イライラ、発散）が、夫婦や子ども、親族間など多くの人々に影響し、その結果が介護現場にも影響する。
- 9) ①心理的な距離感で、社会参加を阻害する物理的、社会的な障壁を取り除いていく難しさ。②介護、医療の連携の為の通訳派遣等々。
- 10) 介護の仕事外で通院やタクシー手配、翻訳通訳など他のサービスの希望が多い。
- 11) 一般的に老人は介護保険制度をあまり理解できないので、介護の範囲外の要望をし、できることもあるが、時間や手間がかかり本当にできない場合は困る。
- 12) 介護員の仕事をお手伝いさんと勘違いした老人もいるが、多くは理解している。
- 13) 介護保険制度の説明
- 14) 利用者宅で物が見つからない時。どこに置き忘れたかはっきりせず、介護職員の自分が疑われるのではないかと不安になること。
- 15) 仕事では善良な心持ちで自分の家族同様に接すること。多くの帰国者は日本語が不得手で非識字者も多い。
- 16) 困った経験なし。国にもっと帰国者に関心を寄せてほしい。帰国者とその家族には生きているうちに楽しく、健康に過ごしてほしい。施設で頭を使う用具（ゲームなど）などを支援してほしい。

- 17) 会話で誤解が生じることもあるが、時間が経て各自の性格を理解すると避けることもできるので、今の所あまり問題が無い。
- 18) 特に困ることは無いが、時々中国と日本文化の差で物事に対する考え方を説明することがある。
- 19) コロナウイルスによる感染が一向に終息しない中、利用者は大変不安な毎日を送っている。最近では悲慘な戦争のニュースに心を痛め、昔を思い出すこともある様だ。私は幼小期より祖母に戦争の話をたくさん聞きながら育ったので一世がどれほど苦勞されたのかある程度は理解しているつもり。正社員だった仕事を辞めて介護に携わりたいと強く思ったのもそんな経緯があったからだ。老いて行き場が無いことは本当に辛いと思う。現状帰国者が認知症や要介護になっても受け入れてくれる施設が少ないので、なんとか安らげる場を提供したく入所施設の設立を決意し、開業準備をしている。今後の支援をよろしくお願いします。
- 20) 幼少期に帰国したので中国語の難しい用語をそんなに話せない。病院などの専門用語がわからない。
- 21) なし。
- 22) 仕事で困難な事はなし。
- 23) 特に無く、事情を説明するとすぐに理解し、納得してもらえるので、楽しく仕事をさせてもらっている。
- 24) 誠心誠意仕事し、困ったケースはなかった。
- 25) 中国語ができるので、困ったことがなかった。
- 26) 現在まで困ったことがまだない。
- 27) 私は特になかった。

#### (5) 現在介護関連の仕事に就いていない者について

##### ①介護の仕事をしていない、または、予定していない理由

|                     | 件数 | %    |
|---------------------|----|------|
| 1) 条件に合う事業所がない      | 5  | 6%   |
| 2) 他の仕事をしている        | 42 | 50%  |
| 3) 日本語や習慣に自信がない     | 11 | 13%  |
| 4) 言葉や習慣等でトラブル      | 3  | 4%   |
| 5) 体力や健康の面で無理       | 8  | 10%  |
| 6) 事業所を見つける方法が分からない | 3  | 4%   |
| 7) その他              | 12 | 14%  |
| 計 (複数回答あり)          | 84 | 100% |

64人回答 (無回答4)

介護資格を取得しながら介護の仕事をしていない理由で最も多かったのは、「2）他の仕事をしている」（半数）だった。

次に多い「7）その他」では（介護職では生活できない）（コロナの収束後従事したい）（難しい日本語が多くなければ従事する）（近所で10時から17時の職場があれば従事する）（妊娠のため）（自宅で介護中）（学習中）（別の仕事の内定が出た）との回答だった。

また、「1）条件に合う事業所がない」では（給料が安く仕事しやすい環境が不足）（12時以後で家から通勤1時間以内）（子どもの都合上近所で10時から17時の職場）との回答だった。

## ②今後、介護の仕事をする意志

まったく意志のない人はわずかであり、何らかの状況変化やタイミングにより介護の仕事に就きたいと考えている人が多いようだ。

|                          | 件数 | %    |
|--------------------------|----|------|
| 1）条件に合う事業所が見つかればやる       | 31 | 33%  |
| 2）日本語や習慣に自信が持てればやる       | 9  | 10%  |
| 3）帰国者の同僚や介護サービス利用者がいればやる | 13 | 14%  |
| 4）今の仕事が終われば介護の仕事をする      | 23 | 24%  |
| 5）介護の仕事を今はやる予定はない        | 7  | 7%   |
| 6）その他                    | 11 | 12%  |
| 計（複数回答あり）                | 94 | 100% |

67人回答（無回答1）

「6）その他」では（今はまだ考えられない）（腰痛）（医療通訳で忙しい）（病が回復しつつあるので今後可能な限り従事したい）（時間ができれば従事する）（日本人利用者の介護希望。帰国者2世代との人間関係が苦手【1世配偶者】）（退職後始めたい）（持病）（介護職に従事したが職場での人間関係と、日本語が不得手で理解してもらえなかった為転職）（高齢者相談で介護資格を活かしている）との回答だった。

## （６）その他

### ①介護関連資格取得者の行っている他の帰国者支援活動等

１７１人中７１人（４２％）が帰国者に関係する他の支援活動等の経験をもっている。

|                  | 人数 | %    |
|------------------|----|------|
| １）自立指導員          | 9  | 13%  |
| ２）自立支援通訳         | 13 | 18%  |
| ３）医療・介護通訳        | 17 | 24%  |
| ４）身元引受人          | 2  | 3%   |
| ５）ボランティア団体       | 7  | 10%  |
| ６）中国帰国者支援・交流センター | 9  | 13%  |
| ７）その他            | 14 | 20%  |
| 計（複数回答あり）        | 71 | 100% |

各回答項目の具体的な活動内容は以下のとおり。

「３）医療・介護通訳」では

（医療通訳）（ボランティアで医療通訳）（市・県の派遣医療通訳）（病院引率）（介護通訳）（介護保険認定で通訳）（町内の児童民生員で国際結婚家族の通訳）

「６）中国帰国者支援・交流センター」では

（語りかけボランティア）（帰国者相談員研修会等の参加）（新年会等の行事参加）

「７）その他」では

（親戚や友人、友人の親戚達の通訳）（日本語学校職員留学生担当）（市役所派遣市立小学校中国語教師）（外国人高齢者支援全般）

### ②「中国語の対応が可能な介護事業所」の情報について

厚生労働省が公表している「中国語の対応が可能な介護事業所」【毎年９月末更新】について、回答者１５６人中５７人が情報提供を「希望する」、６２人が「どちらでもよい」と答えている。合わせると１１９人（約８割、７７％）が介護に関する求職等の参考として情報に関心を寄せている。

|           | 人数  | %    |
|-----------|-----|------|
| １）希望する    | 57  | 37%  |
| ２）希望しない   | 37  | 24%  |
| ３）どちらでもよい | 62  | 40%  |
| 計         | 156 | 100% |

156人回答（無回答15）

### ③援護基金機関紙等の送付希望について

介護等に役立てるため、74人が「希望する」、48人が「どちらでもよい」、13人が「送付してもらっている」と回答。

|              | 人数  | %    |
|--------------|-----|------|
| 1)希望する       | 74  | 47%  |
| 2)希望しない      | 22  | 14%  |
| 3)どちらでもよい    | 48  | 31%  |
| 4)送付してもらっている | 13  | 8%   |
| 計            | 157 | 100% |

157人回答（無回答14）

### ④帰国者の介護に関する意見

- 1) 援護基金には大変感謝している。介護資格取得後7年間中国人利用者の担当だが、介護以外や規定外の仕事を求められる。昨年から日本人利用者の担当になった。
- 2) 将来的に帰国者が宿泊できる施設を創設してもらいたい。
- 3) 日本語を学習せず仕事に従事したため、一人で救急対応ができず、救急車を呼んで的確な状況説明ができなかった経験がある。また、パソコンが不得手で上司から日本語がもっと上達すれば完璧なのと言われたのが、自分にとって最も落ち込んだこと。
- 4) 家族の介護に大変役立ち、貴重な機会をもらい感謝している。私は中学時代の先生に勧められて、初任者研修を取得した。理由は日本語が話せない残留孤児や二世が困っている今、日本語も中国語も話せる介護職員が必要だから。資格取得後近所のデイサービスで勤め、平成29年10月帰国者が安心して楽しい晩年を送れるように中国語対応のデイサービス設立時に、私も日本のデイサービスで学んだことを活かし、いろいろとお手伝いした。利用者はみんな中国から来た人たちで周りの目を気にせず会話できるのと中国の歌を歌ったり、民族舞踊を踊ったり、マージャンや様々なレクリエーション、機能訓練をしている。中国のお祝い事も必ずデイサービスで利用者と祝うことにしている。なんといってもお昼ご飯は毎日シェフが作る故郷の料理。手作りの餃子や肉まんが特に大人気。自分と同じ境遇で話の合う帰国者の仲間と楽しく晩年を送れるいい環境と思う。喜ぶ利用者の姿を身近で見ることができこちらも嬉しくなる。このようないい施設があることを知らない帰国者がまだ沢山いると思う。もっと介護を必要とする帰国者が中国語対応できるデイサービスの情報を得るためにどうしたらいいのか、介護サービスの内容（近所、訪問）利用金額など詳しい情報を紹介できる機会があるといいと思う。中にはデイサービスに通うには高額費用がかかると勘違いする人達もいる。
- 5) 日本語が話せない帰国者は生活上困難に遭遇する。例えば、病院受診、行政の連絡、各種の記載など日本語での対応が必要となる。いろいろな面で利用者が大変頼りにするので、デイサービスの業務管理以外私的な時間等も含めかなり制約されているのが現状。

- 6) 援助のおかげで介護の仕事をやっている。とても感謝している。以前から帰国者の介護に役に立ちたいと思っていたがなかなか機会がなくどうしたらいいか悩んでいる。自分の周りに相談できる人がいないので、情報提供を頂きたい。
- 7) コロナ禍が加速させた介護危機、求められる抜本的な処遇改善。現在介護現場は医療問題に隠れ、社会から危機的実態が見逃されていると考える。介護の2025年問題が注目され、帰国者一世二世にも当てはまる問題で「地域包括ケアシステム」といった在宅介護を基軸とした介護問題に対応しておかなければならない。
- 8) 一世は全般的に後期高齢者となり、平均年齢が80才を超えている現状から考えると、これまでの介護という問題だけではなく、要介護になった先のひとつとして、終末期ケアや看取りの問題にも目を向けないといけなと思う。その問題に対する意識と取り組みに向けたアクションが必要と思う。帰国者向けの墓は全国に16箇所ほど建立されているが、その前段階のケアが今後必要になり且つ大事である。
- 9) 援護基金は介護職員の求職情報、帰国者介護施設の求人情報を相互提供してもらいたい。
- 10) 応援してくれてどうもありがとう。これからも介護の仕事を頑張っていきたい。
- 11) 帰国者の介護経験はないが勉強したい。
- 12) (介護職は) 性格に合わない。
- 13) 帰国者(2世以降)が退職後年金で生活できない場合、政府で生活保護でない最低生活水準相当を支援してほしい。
- 14) 援護基金の介護資格助成で介護資格取得の学習機会を与えてくれたことに感謝する。今後援護基金では他の学習分野でも助成する予定があるか。(例:美容、理髪)
- 15) 中日対訳の介護分野の資料があれば、今後の介護職に役立てるため学習したい。
- 16) 帰国者への関心に大変感謝する。今後も帰国者支援に努めて、貢献したい。
- 17) 今帰国者一世は高齢になり老人施設へ入居やデイサービスへの通所が一般化した。しかし多くの方が言葉の壁があり、普通の入居者や介護職員とのコミュニケーションが取れないのが現実。帰国者の中には言葉が通じないという理由で施設への入居やデイサービス利用を拒む者もある。高齢者施設で中国語ができる職員が在職していればこのような問題も解決できると思うが現実は大変難しく、二世に介護職員研修が勉強できるように声かけをしている。
- 18) 援護基金の就労者支援に心温まる。就労選択の機会を与えてくれて、この意向調査の場を借りて感謝する。
- 19) 日本語があまり流暢でない帰国者は、中国では日本人、日本では中国人と言われ、精神面で苦労してきたので、生活面だけでなく精神面でもより配慮した支援を希望する。
- 20) 中国語であれば仕事ができるが、意思の疎通が一番の悩み。真剣に日本語の学習をしたい。